

花き類に発生したウイルス病

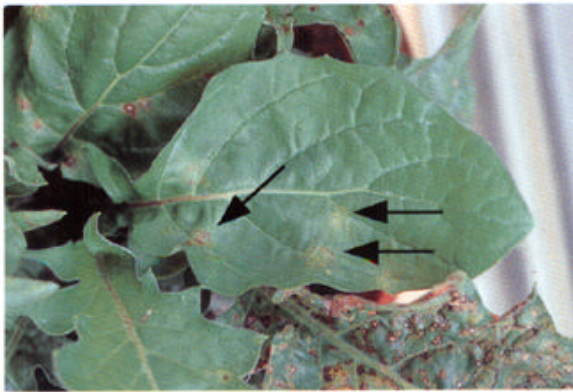
<ガーベラえそ輪紋病>



罹病株は株全体の葉に大小さまざまな輪紋を生じ、生育不良となる。



葉全面に形成された年輪状の輪紋



新葉に形成されたえそ輪紋



花柄は短く、屈曲する。花は小型化し、開花しても奇形となる。

<トルコギキョウモザイク病>



葉の一部が焼けたように退色し、後に全体が黄化・萎凋する。



葉脈に沿って、小褐点を多数生じ、カスリ状を呈する。



モザイク症状や奇形を生じる場合もある。

花き類に発生したウイルス病

1. ガーベラえそ輪紋病

病原菌 : トマト黄化えそウイルス

Tomato spotted wilt virus (TSWV)

発生状況 : 1999年8月、島しょ地区の施設栽培で発生。発生は特定の品種に限られ、また、以降本病の被害の拡大は確認されていない。

病徴 : 全身の葉に濃淡きわめて明瞭な年輪状の輪紋や黒褐色のえそ輪紋を生じる。発症葉は古くなると輪紋周辺が紫褐色を呈し、全体が黄化する。花柄は短く、屈曲し、花は小型化し、開花しても著しく奇形となる。重症株は、株全体が小型化し、生育不良となる。

備考 : 東京都における本病の発生は初確認である(平成11年度病害虫発生予察情報特殊報第2号 平成11年11月17日発表 P. 参照)

2. トルコギキョウモザイク病

病原菌 : キュウリモザイクウイルス

Cucumber mosaic virus (CMV)

発生状況 : 1999年7月、北多摩地区の雨よけ栽培で発生。施設内において品種の違いによる発病および病徴の差異は認められなかった。

病徴 : 葉に焼けたような乳白色の退色斑や、葉脈に沿って褐色の小褐点を多数生じ、カスリ状を呈する。重症株では花枯れを生じたり全身が黄化し、萎凋・枯死する。

備考 : 今回発生した本病の症状は、トマト黄化えそウイルスによる「黄化えそ病」に症状が類似し、外見からは病原ウイルスの判別が困難であった。